



1. はじめに

6月に入りましたが、まだ肌寒さが残る今日この頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。当工事は屋根・外壁工事が終盤を迎え、内部では仕上工事が本格化してきました。これから梅雨の時期を迎え雨が続きませんが、安全作業で工事を進めてまいります。引き続き工事へのご理解とご協力の程よろしく申し上げます。

7回目の今回は、内装工事（軽量鉄骨下地・石膏ボード張り）についてご紹介します。

2. 場内全景（5月17日 ドローンによる空撮） 建物西側より



3. この1ヶ月の主な作業（5月初旬～6月初旬）

<p>①鉄骨工事</p> <p>メイン材 4016㎡ サブ材 1685㎡ その他 170t</p>	<p>2月より鉄骨建て方を開始し、先月（5月17日）に鉄骨を支えていた支柱を取り払いジャッキダウンが完了しました。およそ3か月間におよぶ鉄骨工事期間でしたが、無事故・無災害で工事を完了することができました。</p>	
<p>②内装工事</p> <p>軽量鉄骨下地 石膏ボード張り</p>	<p>今回、ご紹介する工事。内装の仕上げには必須の工事であり、内装の出来栄に直結します。各部屋の間仕切りを軽量鉄骨下地で構築し、クロスや塗装をする下地となる石膏ボードを張ります。</p>	
<p>③外壁工事</p> <p>ECP</p>	<p>ECP（押出成形セメント板）という外壁材を2Fより上部に張り付けを行っております。様々な種類のリブ（縞模様）をランダムに組み合わせています。スタイリッシュな外観を作ります。</p>	

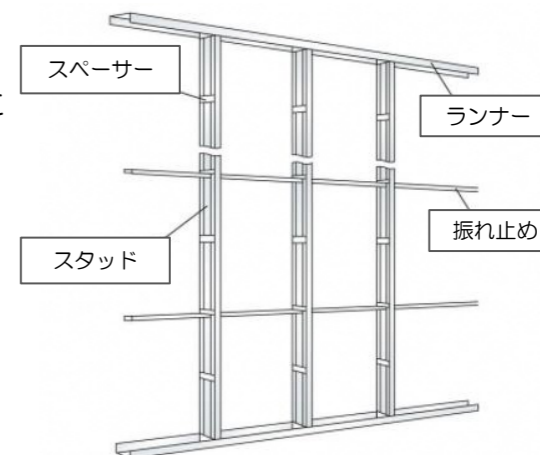
4. 工事内容の紹介

今回は内装工事（軽量下地鉄骨・ボード張り）についてご紹介させていただきます。

■軽量鉄骨下地（LGS）ってなに？

LGSは、（Light Gauge Steel）の略称で壁や天井を作る際の下地を、JIS鋼材で作成したものを指します。上下に配置したランナーにスタッドを差し込み、振れ止め及びスペーサーで固定することで、壁下地が出来上がります。軽量鉄骨による壁の下地は、高さ5mまでと制限があるため、5mを超える壁には、高さ5m以下の場所で鉄骨等の強固な部材に支持させることで壁を作ります。（写真1）

また、壁の仕上がりに応じてスタッドや振れ止めのピッチ等も規定があり、現場では、それぞれの壁の仕上りに応じて規定通り施工できているか確認を行っています。（写真2）

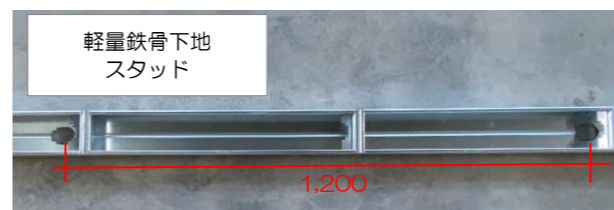


5m超えの壁には、
中間に鉄骨梁を設けています



それぞれの壁の仕上りに合わせた軽量鉄骨下地の検査をします。

- ①使用部材の規格確認
- ②スタッドピッチ @303（1枚）@455（2枚）
- ③振れ止めピッチ @1200
- ④スペーサーピッチ@600



軽量鉄骨下地
スタッド

1,200

スタッドには@1,200で孔加工が施されており、ここに振れ止めを通して完成となります。

■石膏ボード張り

石膏ボード張りは、壁や天井を仕上げるために必要な工事です。張り上げたボードにはクロスを貼ったり、塗装をすることで部屋が完成します。石膏ボードは、軽量鉄骨下地にビスによって固定（2枚目は、接着材とステーブルによって固定）します。石膏ボードにもいろいろな厚みや種類があり、給湯室やトイレの水回りには、耐水性のあるボードを使用し、掲示物を取り付けたい箇所には、鉄粉を表面に混ぜ込み磁石のつく特殊なボード（Feボード）を使用しています。

また、遮音性能（室内の音を隣の部屋に伝えない性能）が必要な壁には、壁の内部にグラスウールを入れて遮音性能を確保しています。



ボード張り状況

グラスウール
遮音性能の求められる壁に充填します



エアタッカー

ステーブル（大きいホッチキス針）を
コンプレッサーの空気圧で打込みます



Feボード：（磁石がつくボード）
表面に鉄粉が練り込まれています